

平成23年度 京都市予算案 事業概要

北区役所

事務事業名	北区猿害対策事業		
予算額	3,200千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担当課	区民部まちづくり推進課 (432-1208)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>北区では、近年、サル、シカ、イノシシをはじめとする野生鳥獣による農林作物の食害等が極めて深刻化しており、農業者や林業者の経営を圧迫し生産意欲の減退を招いている。</p> <p>とりわけ、サルについては、農作物への食害に留まらず、市街地に出没し、住宅敷地内への侵入、児童公園への徘徊等が頻発するなど被害の状況も多様化しており、高齢者や女性、子ども等をはじめとする弱者への威嚇や、民家への侵入、食料品のひったくり被害等、市民の安全を脅かす状況へと発展する可能性が極めて高いと想定される。</p> <p>そこで、サルの生態調査等に取り組む大学や団体、有識者等との連携を図り、北区におけるサルの行動エリア、行動パターンや効果的な追い払い対策を模索するとともに北区に出没するサルに関する対策ネットワークを構築し、出没情報、防除対策、追い払い方法等を地域住民に適宜発信する仕組みづくりを進める。</p> <p>また、サルの行動エリア内にある老健施設、保育園、小学校等、高齢者や子どもをはじめとするいわゆる弱者を抱える施設における安全対策を図り、人的被害を未然に防止する。</p> <p>[事業概要]</p> <p>群れにいる一部のサルに電波発信機を取り付け、群れが頻発して出没する地域に受信アンテナを設置することにより、サルの群れが接近した場合、携帯電話のメール等により近隣地域住民や施設にいち早く知らせ、各戸で猿害の予防措置をとることができるようにする。</p> <p>また、地域住民との協働によって、接近時に花火等で追い上げ行動を実施することにより、サルの群れが寄り付かない地域づくりを目指す。</p>			
<p>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</p>			

平成23年度 京都市予算案 事業概要

上京区役所

事務事業名	洛中洛外図の世界が甦る～観光案内ボランティア (上京の歩く語り部)の育成～		
予算額	3,000千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担当課	区民部総務課 (441-5029)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 平安時代末期から「上辺(かみわたり)」と表現されてきた上京。現在の上京区は、平安京の大内裏があった地域であり、源氏物語が描かれた地域でもある。また、茶の湯、能楽、連歌など和文化の源流ともなった室町時代、利休や秀吉、激動の幕末から明治維新など、上京区には日本の歴史と文化が深く刻み込まれている。</p> <p>このように、上京区には長い歴史に培われた歴史的観光資源があるにもかかわらず、その多くが視覚で確認できないため、観光で訪れた方はもちろんのこと、地域住民でさえ知らないことが多いのが現状である。</p> <p>そこで、こうした時代の流れを分かりやすく解説する観光案内ボランティアとして「歩く語り部」を育成し、上京区の魅力を再発見する「まち歩きツアー」を実施する。</p> <p>[事業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> シナリオコンテストの実施 区内の「まち歩き」をテーマに、誰でもコース案内ができるシナリオを募集する。入賞作品はホームページで公開し、まち歩きマップとして提供する。 情報提供システムの開発 携帯端末等からアクセスすることで、洛中洛外図の世界をはじめ、区内の史蹟等の情報を画像と文章で閲覧できる情報提供システムを(財)京都高度技術研究所と共同で開発し、まち歩きの案内用ツールとして活用する。 まち歩きツアーの実施 区内で上京区の魅力発信に努めている団体、個人、NPO法人などとの協働で、上記のシステムを活用したまち歩きツアーを実施する。また、ツアーの実施に当たって、観光案内ボランティアの育成を図る。 			
<p>[参考(他都市の状況・事業効果など)] 携帯端末等で情報を提供するシステムは民間企業等で既に実施されているが、まち歩きを念頭にしたシステムとすることで差別化を図っていく。</p>			

平成23年度 京都市予算案 事業概要

左京区役所

事務事業名	静原地域のまちづくり		
予算額	1,500千円	新規・継続の別	継続
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担当課	区民部まちづくり推進課 (771-4246)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 貴船・鞍馬と大原の間に位置する静原地域は、里山の原風景を残す自然豊かな地域であるとともに、多くの社寺を有する歴史と文化に彩られた魅力ある地域である。しかし、隣接する貴船・鞍馬や大原のようにゆっくりと滞在して楽しむ観光地としての整備はまだまでであり、また、少子高齢化などの課題も抱えている。</p> <p>この地域が「自治・自立」による「魅力を生かしたまちづくり」に取り組んでいただく「きっかけづくり」のため、話し合いの中から有効な事業を検討、展開し、継続可能で地域のPRに有効な事業を検討する。</p>			
<p>[事業概要] 平成22年度：予算額 800千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 「我がまちを知る」をキーワードに地域の活性化に寄与し、地域住民主体で実施できる取組や事業をワークショップで検討 地域の魅力を見直すためのまち歩きの実施 <p>平成23年度：予算額 1,500千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 「やってみる」をキーワードに、集客が期待できるイベント等を実施し、継続可能で地域のPRに有効な事業を検討 			
<p>[参 考（他都市の状況・事業効果など）]</p>			

平成23年度 京都市予算案 事業概要

左京区役所

事務事業名	高齢者にやさしい店事業		
予算額	800千円	新規・継続の別	継続
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担当課	福祉部支援課（771-4289）		
<p>[事業実施に至る経過・背景など] 認知症についての理解を深め、認知症の人とその家族を地域でも支えるため、高齢者が利用しやすい店舗づくりを進める「高齢者にやさしい店」事業を平成21年度から展開している。</p> <p>[事業概要] 平成23年度は「高齢者にやさしい店」登録店の更なる増加を図るために、「認知症サポーター養成講座」の開催数を増やす。また、「高齢者にやさしい店」ステッカーの知名度を上げて事業の周知を図る。更に、登録店一覧の冊子とホームページの更新を行うとともに、登録店に対し事業の効果や今後の事業展開に関するアンケートを実施する。</p> <p>平成21年度：予算額 1,000千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録店舗数 59店 「認知症サポーター養成講座」参加者数 124名 認知症に関する街頭アンケートの実施 <p>平成23年度：予算額 800千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録店舗数 100店（目標） 「認知症サポーター養成講座」の開催 「高齢者にやさしい店」登録店に対するアンケート 			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			

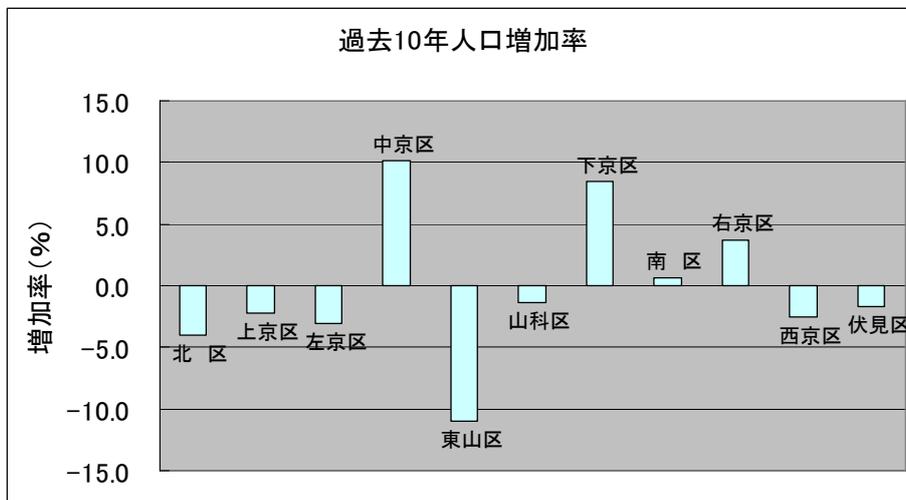
平成23年度 京都市予算案 事業概要

中京区役所

事務事業名	中京区まちづくり次世代推進者共育支援制度		
予算額	1,000千円	新規・継続の別	継続
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担当課	区民部まちづくり推進課 (812-2426)		

〔事業実施に至る経過・背景など〕

中京区では平成7年度以降人口が大変増加しており、平成22年度と平成12年度の国勢調査等のデータの比較では人口増加率は10.1パーセントと、人口が横ばい又は減少している行政区も多い中において飛び抜けて高い数字となっているが、人口の増加がそのまま地域力の維持・向上に繋がっているとは言えないのが現状である。また、地域自治組織の代表者に対して行った地域活動等に関するアンケート調査においても、次の世代リーダーや中心メンバーの育成が必要という回答が多いという結果が出ており、地域活動の担い手を育成することが重要な課題となっている。



〔事業概要〕 平成21年度～23年度継続事業 予算総額 2,500千円

- ・ 次世代のまちづくり活動を推進する担い手育成を目的とした「まちづくり仕掛け人養成講座」を開講し、まちづくりの事例研究や地域の抱える課題についての討議等を行う。
- ・ 講座の中で受講生にまちづくり事業を企画させ、その企画の中に区民ニーズが高いと認められるものがあれば、中京区が事業費の助成等事業実施に向けたサポートを行う。

(平成21年度に講座プログラムを開発・試行し、**22, 23年度は講座の運用及び受講生サポートを継続して行う。**)

〔参 考 (他都市の状況・事業効果など) 〕

平成23年度 京都市予算案 事業概要

中京区役所

事務事業名	人口増加に対応した地域活動の支援事業		
予算額	500千円	新規・継続の別	継続
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担当課	区民部総務課（812-2421）		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>区内では、近年のマンション増加により人口が増えている中で、地域において住民間の交流・融合が必ずしも円滑に進んでおらず、地域活動に支障を及ぼしている状況が見受けられる。</p> <p>このため中京区においては、自治会等の関係者が地域住民への対応について学区を越えて情報交換し、新たな取組を生み出すことができるよう、平成20・21年度に「地域とマンションの交流に関する情報交換会」を開催してきた。また、情報交換会において話し合われた情報等を取りまとめ、地域が実際に活動を展開する際の参考とするための報告集を作成した。この成果を踏まえ、個々の地域が実際に新たな取組を具体化して実施できるよう、平成22年度はパイロット地域を選定し、地域の関係者とともに交流事業を検討している。</p> <p>【事業概要】</p> <p>平成23年度は、パイロット地域における具体的な事業のプラン（平成22年度中に策定）に基づく「地域とマンションの交流事業」を支援する。</p> <p>1 交流事業検討会の継続</p> <p>平成22年度のパイロット地域において、平成23年度中の「地域とマンションの交流事業」実施に向けて、引き続き地域の関係者ととともに交流事業の検討会を開催する。</p> <p>2 「地域とマンションの交流事業」の支援</p> <p>パイロット地域における、具体的な事業のプラン（平成22年度中の検討会で策定）に基づく「地域とマンションの交流事業」の実施を支援する。</p> <p>3 活動報告集の更新</p> <p>地域が新たに事業を実施する際により効果的なものとなるよう、これまでの情報交換会の報告集に、事業検討会及び交流事業の取組内容等を追加して更新する。</p> <p>平成20年度：500千円　平成21年度：500千円　平成22年度：500千円</p> <p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p> <p>新たな取組を展開することにより、パイロット学区における円滑な住民交流、地域活動の更なる活性化を目指すとともに、効果的な取組として、対応に苦慮している学区や地域の参考事例となることを目指す。</p>			

平成23年度 京都市予算案 事業概要

東山区役所

事務事業名	「東山こどもまちづくりリスト」事業		
予 算 額	1,500千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担 当 課	区民部まちづくり推進課(561-9114)		
<p>〔事業実施に至る経過・背景など〕 東山区では、少子高齢化が著しく、まちづくりの担い手不足や地域コミュニティが希薄化しつつあることが課題となっている。 そこで、子どもたちが『仮想のまち』体験イベントとその準備作業を通じ、まちづくりについて興味を深め、未来のまちづくりの担い手として育成を図る。 これにより、各種団体等の活動や地域に対する理解を深めるとともに、東山区民の区に対する愛着心の高揚を図り、区民相互の交流とふれあいを深める。 ※ 『仮想のまち』とは、職業体験を通じ、勤労観等を育むだけでなく、子どもたちが主体となって、ワークショップやフィールドワークを行い、道路や町内会、商店などまちの暮らしに必要なものやルール、イベントなど、暮らし全般について子どもたちが考えて作り上げた、“自分たちが住んでみたいまち”で自治活動や職業体験を行うなど、まちのあり方を総合的に考え、実際に運営体験を行うものである。</p> <p>〔事業概要〕 ○準備段階： 開催の準備作業としてリーダー的役割を果たす小学4～6年生を選び、ワークショップ形式でまちの設計や働きたい店の検討、まちでのごみの出し方といったまちや暮らしのルールづくりなどを子どもたち自身で考えて行う。 ○開催当日： 区役所や警察などの公共機関の役割や飲食店やサービス業などでの就業活動、消防団、体育振興等のコミュニティ活動などの体験を行う。併せて、働いた給料で納税や買い物、食事をするなど、社会人活動全般についての体験を行う。 ○特設コーナーの設置： 現実のまちづくりの魅力や課題についても学んでもらえるように、親子まち歩きなどを通じ、地域行事・景観・伝統産業など、身近なまちづくりに係るテーマについて調査し、その成果を『仮想のまち』の特設コーナーで発表する。</p>			
<p>〔参 考（他都市の状況・事業効果など）〕</p>			